

MC-8

MICROCOMPOSER ¥1,200,000 ●本体、インターフェース

シンセサイザー音楽の制作プロセスを大きく変えるマイクロコンポーザー。

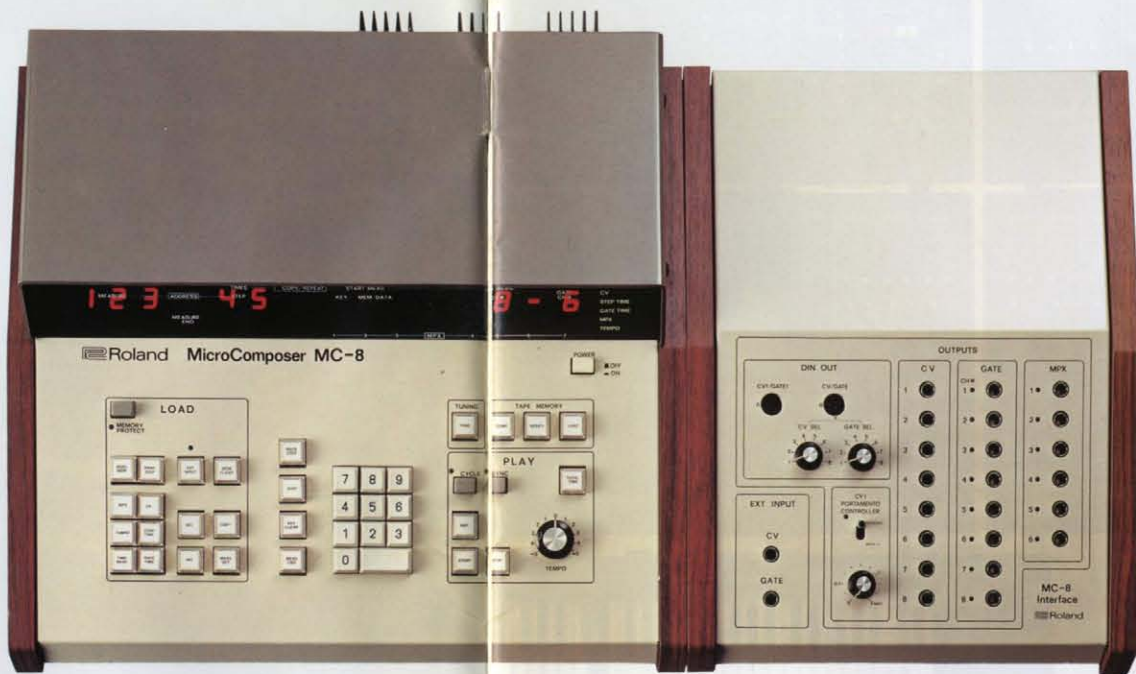
これまでコンピューター音楽の試みは何度となくされてきましたが、それらはコンピューターに対する十分な知識が必要であり、そのためハードとソフトを理解している一部の専門家たちのものでした。マイクロコンポーザーMC-8はマイクロプロセッサを中心に構成され、コンピューターに対する専門知識を全く必要とせず、ひろく一般の人々にもコンピューターによるシンセサイザー音楽の制作を可能にする画期的なものです。

MC-8登場の背景

今日音楽界はもろもろの商業的や一般の分野でもシンセサイザーはほぼ必要不可欠の存在となり、非常に勢いで普及し、確実にシンセサイザー人口が増えつつあります。しかし、これまでキーボードを弾けることが大きな条件であり、多重録音による音楽制作の場合にも、高度な録音テクニックや多くの時間を費しました。しかもダビングの繰り返しによる音質低下という問題もありました。マイクロコンポーザーMC-8は、キーボードをテンキーに置きかえ、ある程度の音楽知識があれば、キーボードが弾けなくても、高度な演奏テクニックを要する曲でも、正確に定められたとおりに演奏することを可能にしています。もちろんMC-8はテンキーだけでなくキーボードでもコントロールすることができます。8台のシンセサイザーを同時にコントロールすることができるので、音のクオリティを飛躍的に向上させることも可能になりました。

作曲の分野でも

これまではオーケストレーションの場合、人員、時間、経費等の面で制約も多く、実際に演奏されるまでは正確に作曲者の意図を表現することができませんでした。が、マイクロコンポーザーMC-8は、作曲しながら即座にその音を表現することが可能になりました。「つまりオーケストラを前に置いて作曲するようなものです。」と同時に従来作曲されても演奏する機会が与えられなかった曲はたくさんあり、作曲家の夢はなかなか満たされていませんでした。マイクロコンポーザーMC-8は、これら作曲された曲を簡単に表現することはもちろん、長時間にわたる曲でもすべてデジタル信号化することで、他の特殊な装置を全く使わずに市販のオーディオカセットテープに記録し、保存することもできます。また、限られた時間に正確に音楽をあてはめる場合、たとえば商業音楽などの場合、従来はテープ編集など非常に高度な技術とキメの細かな作業には大変な時間を要しました。マイクロコンポーザーMC-8は、音程を変えることなくつまみひとつで1秒の単位まで正確に時間をコントロール(延ばしたり、縮めたり)することができます。さらにマイクロコンポーザーMC-8の正確無比な音程、リズムはこれからの音楽教育にも広く活用することができます。これらの多くのメリットをもつマイクロコンポーザーMC-8は、従来の多重録音による音楽制作の概念を大きく変え、さらに発展させ、これからのシンセサイザー音楽に無限の可能性を示します。



●フロント: 8チャンネルコントロール電圧(0V-10.56V, 127ステップ, 83mV/step) 8チャンネル出力、並列6チャンネルのMIX出力、CV1-フロントに2つのスタートON/OFF可変スイッチ、700MHz DINコネクタ出力端子 ●インター: キンキー(シフト)、外部キーボードによるリアルタイムインプット ●メモリ: 最大M.M.I.=254/512sec.-10ms/1step ●メモリ容量: 16k Byte, 5400音たL CV1個及びStepTime, GateTimeのみ ●使用IC: 8080A(CPU), 5k Byte PROM, 4k Byte-16k Byte RAM ●外形寸法: 本体460(W)×155(H)×406(D)mm, インターフェース303(W)×114(H)×406(D)mm ●重量: 本機10.7kg, シンセサイザー4.5kg ●消費電力: 60W

SYSTEM 700
音の制作プロセスを大きく変える

エレクトロニクス・ミュージック・ローディング
スタジオ(カナダ): RALPH DYCK



MAIN CONSOLE